

NPO都市災害に備える技術者の会 第3回WG議事録

日時：平成17年6月20日 18:30~20:30

場所：神戸まちづくりセンター6F会議室

出席者：片瀬 太田 倉橋 柿本 湯原 伊藤 宮本 多名部 角本 林（敬称略）

配布資料

- ・第1回 耐震フォーラム参加写真 太田
- ・地震防災マップ関係資料 角本
- ・神戸 JIBANKUN 資料 角本
- ・災害に強い社会に向けた日本の対策 多名部
- ・神戸市における耐震診断事業 倉橋
- ・防災コミュニティ作りについて 片瀬

1. 報告事項

東京第1回 耐震補強フォーラム参加 太田より

6月19日 300人規模で 国交省の北側大臣も参加 期待は大きい

渋谷会員が国の立場から また、太田会員が宅地地盤についてコメントを行った。

2. 話題提供

前回までのWGで話題にのぼり要望のあった内容について、神戸市などで直接業務にたずさわっている3氏をお招きし、話を伺った。

2-1. 地震予測マップについて 神戸市企画調整局総合計画課 角本さん（防災の技術的な窓口）

内閣府の地震防災マップについて

マニュアル作りの一環として神戸市がモデル地域の一つとして実施。そのほか 地方中規模都市などがモデルとして参加。成果はホームページで閲覧可能（住民全体に配布まではしていない）

A.50m メッシュゆれやすさマップ B.危険度マップ 2つを作成

マップは1.南海地震 2.山崎断層 3.上町断層 4.直下型(M6.9)を重ね合わせて作成

しかし、直下型をいれるとすべて震度6以上になってしまう。直下型はすべてのメッシュの下で地震を起こしているの、震度が高くなるのは当たり前？ 本当は南海とか現実的な地震を考えたほうがよいかも知れない

神戸市の地盤研究会

JIBANKUN 地盤情報データベースシステム 神戸大 沖村先生中心

地震の波を元にして、JIBANKUN を使い詳細な検討などの活用が期待される。

なお、マップ自体は の成果を利用する。そのほか、

- ・木造家屋の常時微動を計測 耐震補強効果を評価する。今後3年くらいをめどに耐震診断した家屋を対象に測定 さらに補強後に測定
- ・液状化に関する研究 の波とJIBANKUN で研究 神戸大 田中先生中心
- ・地盤特性図の作成 過去の歴史資料も含め作成

2-2. 災害に強い社会に向けた日本の対策 神戸市危機管理室 多名部さん

内閣府の仕事を中心に説明（前年度まで内閣府に研修生として出向）

中央防災会議

新潟県地震における初動体制

地震防災戦略

国連防災会議インド洋における津波警報体制
神戸の絆ネットワーク

2 - 3 . 神戸市の耐震診断事業 神戸市住宅供給公社スマイルネット 倉橋さん

- ・市で行なっている事業 ; S56 以前の住宅の耐震診断の補助 耐震施工は県の補助
診断結果の報告と助言を建築士が行う。
- ・県の補助も 5 6 年以前 (たとえば) 改修工事費 3 0 0 万円以上は 5 0 万円補助
ただし、建物全体が補強されなければならない。耐震ベツト購入はだめ。
神戸市戸建対象 8 2 7 0 0 現在合計 1 0 4 2 戸 1 . 2 % の受診率 そのうち 8 割くらい
は大地震 (震度 6 強か?) でやや危険 ~ 危険
- ・アンケート 診断にかかわった建築士に行なう。E.x.相談 98 件のうち、工事は 28 件うち
県の耐震補助を受けた件数 4 件 補助金の対象となる工事のレベルが高いことも原因か?
<浮かび上がる問題点>
1 . 資金 2 . 施工者等の信頼性 安心して任せられるところ
2 については 9 月をめどに取り組んでいる 建築士および工務店の団体
十分理解して設計できる人が 2 0 くらいしかいない もっと増やす
地域への PR の仕方が難しい。決定的な手法が現在ない。

感想

- 2 0 0 ~ 3 0 0 万出して命が確実にたすかるなら出費するが、どうも工事価格設定に信頼性がない。
- マイナスをゼロに戻すだけのものに対するインセンティブがない。たとえば耐震改修していればこわれても保障があるとか。
- 固定資産税の評価とか、兵庫県の共済とかについても、耐震化に応じてなにか有利になるものがほしい。
- 片瀬さんから、神戸市 防災福祉コミュニティづくりについてコメント (時間がなかったので詳しい説明は後日?)

3 . 次回 WG

- 7/19 火曜日 午後 6 時 3 0 分から神戸まちづくり会館にて
(7/18 月曜日は海の記念日で祝日のため翌日に変更)